

# 東京23区探索徒歩の旅

## 【10】品川区

2014年5月4日(日)

【1】	はじめに	1月 1日(水)
【2】	足立区	2月 1日(日)
【3】	荒川区	3月23日(日)
【4】	板橋区	3月30日(日)
【5】	江戸川区	4月19日(土)
【6】	大田区	4月27日(土)
【7】	葛飾区	4月
【8】	北区	4月29日(火)
【9】	江東区	5月 2日(金)
<b>【10】</b>	<b>品川区</b>	<b>5月 4日(日)</b>
【11】	渋谷区	6月
【12】	新宿区	6月
【13】	杉並区	7月
【14】	墨田区	7月
【15】	世田谷区	8月
【16】	台東区	8月
【17】	中央区	8月
【18】	千代田区	9月
【19】	豊島区	9月
【20】	中野区	10月
【21】	練馬区	10月
【22】	文京区	11月
【23】	港区	11月
【24】	目黒区	12月



### 1. 旅前の品川区の印象

鉄道ファンの小生にとって、品川区の印象は、1872年(明治5年)品川～横浜に日本初の鉄道開通、2003年東海道新幹線品川駅開業、2027年品川～名古屋リニア新幹線開通予定が挙げられる。また、京浜急行のイメージも強い。

江戸時代の東海道53次で最初の宿場町品川宿のイメージもある。

大崎地区の洗練されてSONYビル、大井地区の競馬場や東海道新幹線車両基地も思いあたる。

今回の品川区の旅の事前調査でたいへんショッキングなことがわかった。

実は、品川駅は品川区ではなく港区にあること、目黒駅は目黒区ではなく品川区にあることがわかった。その理由については、今回の旅を通じて、調査していきたい。

## 2. 品川区紹介

### 1) 歴史

近世以前奈良時代、平安時代には既に京都と国府の中継地点やうまやとして機能していたという記録があり、交通拠点となっていたと考えられる。

近世江戸時代には五街道中もっとも交通量が多い東海道の第一宿場として発展していった。区の沿革1889年(明治22年)町村制施行により現在の品川区の領域では以下の町村が誕生。

荏原郡: 品川町、大井村、大崎村、平塚村。

1932年(昭和7年)品川町、大井町、大崎町の3町域をもって品川区が、荏原町の町域をもって荏原区がそれぞれ誕生。

1947年(昭和22年)3月15日 品川区が荏原区を編入。

### 2) 地域

「東京23区生活実感ランキング2006」(2006年9月HOME'Sリサーチ)で

## 3. 今回の品川区徒歩の旅

### 1) ルートと全体概要

#### (1) 往路

大月駅 → (中央本線) → 新宿駅 → (山手線) → 目黒駅

#### (2) 徒歩の旅

目黒駅 → 五反田駅 → 大崎駅 → 北品川駅 → 品川神社 → 品川寺 → 青物横丁駅 → 鮫洲 → 大井競馬場 → みなとが丘ふ頭公園 → 大井ふ頭 16km

#### (3) 復路

大井ふ頭 → (バス) → 品川駅 → (京浜東北線) → 東京駅 → (中央本線) → 大月駅





## 2) 徒歩の旅 ドキュメント

5時20分

起床。快晴、春らしくあたたかくなってきた。

連休も残すところ後2日。

少しサザエさん症候群になってきたが、ここでスカッと忘れるために  
連休では4回目になるが、東京23区徒歩の旅の8回目、品川区に行く。

朝食は、ご飯、白菜の味噌汁、菜の花のおひたし、紅カブの味噌付け、  
直径10cmのしいたけのバター焼き、鳥のから揚げ等でパワーアップ。  
今日も家内に大月駅まで青い折笠プリウスαで送って貰う。  
今日も濱野屋のパート頑張ってるね。夕方、濱野屋で海鮮丼を御馳走します。

大月駅には、山歩きする人、サイクリングするために  
自転車を組み立てている人が多くいた。

朝、早いっすね。

6時00分

快速東京行発車。

大月の山々の緑やキラキラ輝く川の中を電車は快走していく。  
乗換駅の新宿までパソコンで旅行プランをチェックする。

7時45分

今日の出発地、目黒駅に到着。今回初めて降りた。  
駅前には山手線沿線の割には賑やかでなく、整然としている。  
ここは何故か、品川区なのだ。  
すぐそこに目黒区の境界線標識がある。



目黒駅

7時55分

五反田駅を目指して山手線外側を線路沿に進む。  
街は高級感が漂っている。坂が多く、街に立体感がある。  
超高層高級マンションが多い。  
BMW最高グレード車で子どもの送り迎えをしている。



目黒区の境界線標識

田園調布は平面の街であるならば、目黒&五反田は立体の街である。

7時58分

外人専用アパートメントあり。  
独特の雰囲気あり。  
異国情緒が漂っている。



外人専用アパートメント

スゲー高い(高層&高級)なマンションあり。  
見上げ過ぎて、首がつりそうにそうになった。



高層高級マンション

天台宗徳蔵寺。

ここまで来るとお寺もビルになるのですね。

ビルの前に三輪地藏尊、塩地地藏尊が祀られていた。

『三輪地藏尊は、五代將軍綱吉に仕えた大奥の老女・三輪の菩提を  
弔うため、元文3年(1738)に安置されたもの。』

『塩地地藏尊は、貞享4年(1687)竜雲院一峰義天居士の菩提を  
弔うために、安置された尊像。』

当寺の塩地地藏尊は、塩地蔵に供えられた塩を少量もち帰り、  
お風呂に入れて入ると諸病に効果があると伝えられた。』



ビルのお寺



お二人の菩薩

8時13分

五反田駅着。山手線内側に移動する。  
駅前には目黒駅に比べて若干賑やかである。  
特記事項は、駅の直ぐ目の前に小さなユニクロのお店がある。  
どう見ても不自然なんすが、これも都会ではあたりまえ？  
隣にギンダコハイボール横丁あり、こちらはOK。



五反田駅とユニクロ

8時20分

ガードを潜り、また山手線の外側で大崎を目指して歩く。  
目黒川に掛る大崎橋を渡る。ここは西五反田1丁目。  
実は長女が3月に中目黒(目黒区)の目黒川沿の  
貸マンションに引っ越し、ここは下流になる。  
ちなみに目黒川沿いの桜は可憐で有名。  
見上げると桜ではなく、東急池上線の車両が見える。



目黒川と東急池上線



五反田桜小路

少し行くと池上線高架線の下に五反田桜小路という飲み屋街あり。  
いいですねえ、今度夜来ます。  
そして”池上線”を歌おうかな。

ピンクと白のツツジの花が最高に綺麗。  
その後ろに高層高級マンションが並ぶ。  
ここは大崎5丁目。



高層高級マンション

8時33分

大崎駅西口着。駅高架橋を渡って東口へ。  
大崎駅は乗り換えでよく来るが、降りたのはこれまた初めて。  
駅前に”OHSAKI NEW CITY”の一大ビル群があり、  
オフィス、お店、飲食店、住居が街を形成している。  
今日は休日ではほとんど人がいないが、平日はビジネスマン&ウーマンで  
ごった返しているのだろう。  
日立製作所本社、ソニーシティー大崎などの超大企業のビルが並ぶ。



大崎駅



OHSAKI NEW CITY

8時45分

山手通りに入り、北品川を目指す。  
ここもピンクのツツジが満開である。

目黒川を渡り、東海道新幹線、横須賀線、山手線のガードを潜る。  
品川のビル群を背景に、新幹線車両が走っている。絵になるなあ。  
明後日、出張で名古屋へ行く時、車内からこの景色を見てみよう。



鉄道のある街

次に東海道本線、京浜東北線のガードを潜る。  
この辺は、鉄道のある街。

9時00分

品川区立子供の森公園。  
親子ずれが木のテーブルで朝食を食べていた。  
のどかで良いですねえ。  
ところでこれ、恐竜さん？キリンさん？  
目が優しいところはキリンさんですね。



品川区立子供の森公園

9時08分

京急新馬場駅通過。やたらホームが長い駅だ。  
この駅は、北番場駅と南番場駅という駅の統合駅であまりにも  
距離が短いため、高架にする時、駅を真ん中に作って一つに  
したという。面白いですね。



京急新馬場駅



9時10分

品川神社着。

とても重厚な雰囲気がある。

ここで紹介

『後鳥羽天皇の御世、文治三年(1187年)に、源頼朝が海上交通安全と、祈願成就の守護神として、安房国の洲崎明神である、天比理乃命(あめのひりのめのみこと)を勧請して、品川大明神と称し、今は社名を品川神社と改めた。』

相当に古い、由緒ある神社であった。

都心の神社だからとても静かである。

ここでしばらく精神統一をする。



品川神社



よし、出発、国道15号線第一京浜を通過して北品川駅へ行く。

9時25分

京急北品川駅着。とても小さな駅である。

総合乗り入れしている京成電車が通過していった。

さて、ここから旧東海道を西に向かって歩く。

まずは北品川本通り商店会。

品川駅の南にあるのにこの辺は北品川という。

品川宿は旧東海道第一番目の宿場として、

江戸四宿の一つとして数えられる程の賑わいをみせた。

※江戸四宿:千住宿、板橋宿、新宿、品川宿  
とても風情があり伝統をしっかりと受け継がれていることが良く分かる。



北品川駅



北品川本通り商店街

9時40分

品川本陣跡。今は聖蹟公園になっている。

御聖蹟の碑あり。

明治維新のときに京都から東京に移る

明治天皇が宿泊したという事から

「聖蹟」という名前になっているとのこと。

公園では、親子連れ3人が野球をやっていたり、

おじさんがベンチに座ってアサヒスーパードライ500ccを飲んで、幸せそうである。



品川本陣跡



9時46分

再び目黒川。品川橋。

ここで紹介

『この辺りは江戸の昔、「東海道五十三次の一宿」として、上り下りの旅人で大変にぎわいました。

また、海が近く漁業もさかんなところでした。

今でも神社仏閣が多く、当時の面影が

しのばれます。

品川橋は、旧東海道の北品川宿と南品川宿

の境を流れる目黒川に架けられ江戸時代には

〔境橋〕と呼ばれていました。』



品川橋

とても形が良い。

そのちょっと上流に赤い橋・鎮守橋あり。  
そこ横に 荏原神社がある。  
なんと、御鎮座千参百年は凄い。  
ここで、街が品川宿場通り南会にかわった。



荏原神社



鎮守橋

10時00分  
南品川2丁目、児童公園  
ちょんまげを結った子供たちがワイワイ  
遊んでいたのだろう。  
(その昔)



児童公園



品川区立城南小学校の看板

寺小屋 品川区立城南小学校  
開校 明治7年

10時12分  
品川寺(ほんせんじ)着。  
銅造地蔵菩薩坐像に迎えられる。  
ここで紹介



品川寺

『弘法大師空海を開山とし、大同年間(806-810年)に創建されたという。  
長祿元年(1457年)、江戸城を築いた太田道灌により伽藍が建立され、  
寺号を大円寺と称した。その後戦乱により荒廃するが、  
承応元年(1652年)に弘尊上人により再興され、現在の寺号となった。  
スイスジュネーヴ市と深い縁を持つ梵鐘を始め、江戸六地蔵の第一番に  
あたる地蔵菩薩像や東海七福神の毘沙門天などがある。』

本堂の中で御坊様が二人お経を詠んでいた。合掌。  
馬と狐と菩薩様  
その下にベンツをはじめとする高級車がとまっている。  
お坊様は儲かるのかな。(しっ、禁句)

10時25分  
京急青物横丁駅  
ここで休憩、スポーツドリンクと栗最中で活力をつける。  
次に鮫洲を目指す。  
途中、旧東海道を離れ、左に旋回。



京急青物横丁駅

10時52分  
おっ、ここで有名な”警視庁鮫洲運転免許書試験所”  
”警視庁運転免許本部”がある。



鮫洲運転免許試験所

11時03分  
都立高専兄弟校を訪れる。  
東京都立産業技術高等専門学校(旧都立工業高専)  
母校より立派、こちらは分校とは言わず本校なんすね。  
さて、鮫洲橋を渡って大井競馬場に向かう。



東京都立産業技術高等専門学校



11時25分  
大井競馬場北門に到着。  
本日はレース無、だが駐車場でフリーマーケット開催中。  
フリーマーケット掘り出し物多数。非常に安い。  
今度、家内を連れて是非来よう。



大井競馬場



フリーマーケット会場



11時55分

勝島橋の上から対岸を望む。  
左側は八潮パークタウン、高層住宅群が並んでいる。  
右側は大井中央海浜公園、雄大な敷地が続く。  
野球場7つ、サッカー場2つ、陸上競技場1つ、  
テニス場多数。  
スケールが大き過ぎる。  
更に海に向かって進む。  
ツツジのフラワーロードが続く。



八潮パークタウン



大井中央海浜公園



ツツジのフラワーロード



JR東海道新幹線大井車両基地

12時03分

JR東海道新幹線大井車両基地がある。  
ドクターイエローが屋根付きの車庫に  
止まっていた。  
JR大井機関区もある。  
ハイブリットディーゼル機関車やコンテナ  
専用列車(佐川急便所有?)もいる。  
JR貨物と佐川急便の合同倉庫?がある。



合同倉庫



コンテナ専用列車

12時15分

みなとヶ丘ふ頭公園着。やっと着いた。  
それでは中を探索。  
坊や、どこ見てんの?  
磁石で方向を確認すると北の空を見ている。  
その方向には羽田空港から飛び立つ飛行機が  
飛んでいる。  
ん～。いい匂い、園内所々でバーベQをやっている。  
腹減った。  
公園というよりも山道を歩いている様だ。  
”自然池”といっても水は濁り、生き物はいそうもない。  
もう少し、管理をしっかりともらいたい。



みなとヶ丘頭公園



坊や



自然池

12時30分

大井ふ頭第6番バス。  
今日のゴール。  
総走行時間: 4時間40分  
総走行距離: 12km



大井ふ頭第6バス

まだ、終わりではない。  
もう二つ、やることがある。  
一つは、昼飯を食べること。  
もう一つは、品川駅周辺で品川区と港区の境を探ること。

12時50分

大井ふ頭からバスに乗り、品川駅港南口に到着。  
非常に近代的な駅舎で周りも洗練されたビルが多い。  
が、ここは品川区ではなく、港区である。  
まずは昼飯を食べよう。  
大阪王将であんかけそばを食べる。  
(夜は濱野屋で釜飯を食べるのでご飯は避ける)



品川駅港南口



王将あんかけそば

13時15分

区境を探す旅スタート、北品川方面に向かう。

ここで面白い光景を発見。

大きな都営バス品川車庫あり、なんとその上を都営住宅にして土地を有効活用している。管轄が違う部署の共同事業ですね。



都営バス品川車庫

ここが、有名な京急北品川踏切。

相当な急カーブで電車は超低速で走行。

ここも開かずの踏切。



京急北品川踏切

13時46分

品川駅から北品川駅、さらに品川駅高輪口を30分間しつこく探す。

(仕事もここまでしつこくすると良いのだが…)

わかりました、区境。

京急北品川踏切の道を中心に、東側はほぼまっすぐに真東に伸びる。

西側はしばらく国道15号線に従い、その後ほぼ真西に延びる。

いずれにしても、区境と品川駅は300m位しか離れていない。



品川区区境付近標識

と、いうことでお後がよろしいようで…

お後は本日の夕飯

友情出演:大月濱野屋 海鮮丼(奥様用)

(海鮮釜飯(おら用)は、ビール3杯後だったので写真撮るの忘れた)

是非、大月にいらした時は濱野屋へお寄り下さい。(駅前0分)



大月濱野屋 海鮮丼

### 3)トピックス

(1)何故、品川駅は港区、目黒駅は品川区 : インターネットから

#### 【品川駅】

昔、品川宿は日本橋から最初の宿場としてにぎわっていた。昔の人からすれば長い旅に出るので、送り迎えの人がひとつ手前の品川宿で賑やかにやるため品川宿が賑わったようだ。

そして鉄道が敷かれるとなったとき品川～新橋間は明治になっても権力を持っていた薩摩藩などの建物があつたため、鉄道を使って攻め込んでこられるなどの理由がつけつけられて、最終的に海を線路分埋め立てて線路を通す事になった。

そのため仮開業が新橋～品川間の完成が遅れたため品川駅が始発になった。

品川駅も開業にてこずった。品川駅は計画どおりだったら品川宿の近くにできるはずだった。

しかし品川宿の方たちが客が寄り付かなくなると言って作らせてくれなかった。そこで今の京王品川ビルの近くに品川駅が作られた。

その計画当時は品川駅の場所は「品川県」という地名だった。そのため品川駅というそのままの名前で別に違和感はほとんどの人がなかった。

しかし品川駅はその後、高輪村→芝区→港区と移り変わっていったのだ。

#### 【目黒駅】

目黒駅は元々いまの目黒駅と五反田駅の間地点の高速道路の下、徳蔵寺の近くにあったと言われている。

「鉄道院文書」という書物には場所はくわしく記されていないが、「目黒村に駅を設けた」と書いてあり、駅ができて三年後の明治二十一年二月六日に地元住民から請願をうけた「東京府知事高崎五六」から「沿線住民の便利のため目黒村にある目黒停留所を上大崎村永峰へ移転してほしい」と鉄道局長井上勝あてに出願があり、翌二十二年十二月二十一日に永峰の新しい目黒停留場敷地の買収が終わったと書かれている。

そして二十三年頃には今の目黒駅の場所に駅ができたと推測される。

ちなみに「永峰」とは今の目黒駅の所在地で、目黒の名の由来はこの付近に牧場があつたことから馬の名称によるという説が有力で、「め」は馬で「くろ」はあぜ道ということだ。

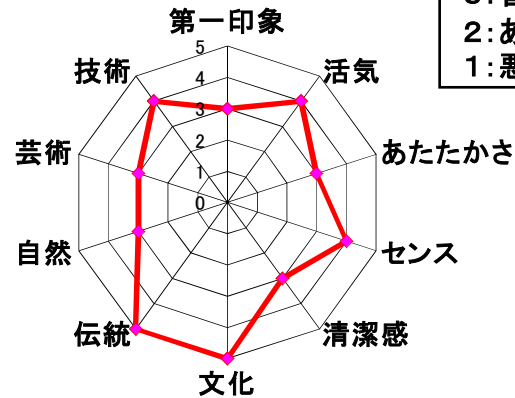


#### 4. 旅後の品川区の印象

##### 1) 評価

評価項目		点数
主観的 評価	第一印象	3
	活気	4
	あたたかさ	3
	センス	4
	清潔感	3
客観的 評価	文化	5
	伝統	5
	自然	3
	芸術	3
	技術	4
合計		37

品川区  
合計37点



点数

5: 良い:

4: まあ良い

3: 普通

2: あまり良くない

1: 悪い

##### 2) 全体を通し

品川区は、江戸時代の文化を残し、明治時代の文化を継承し、最先端の平成文化を作っている歴史的に非常にバランスの良い区と感じた。

ただし、自然の取り入れ等が十分でなく、清潔感が若干欠ける。

また、品川駅&目黒駅問題は、後世の区政や文化伝承を考えて、区画見直しを実施し、品川駅は品川区、目黒駅は目黒区にすべきである。

##### 5. 自身思っていることに対するフィードバック

1) 23回/年の徒歩の旅は、回数的にも大きなチャレンジとなる

→5月の連休は、相当頑張って4回実施し、日程計画回数まで挽回した。

2) 最新のモバイルパソコン導入により移動中の生情報ブログ作成にチャレンジする

→ほぼ問題なしレベルとなった。

3) 有言実行、周りにやるぞと言ってしまった、もう逃げられない

→楽しみながら実行しているので問題なし。

4) 田舎のおじさんは少しは都会的センスが磨かれるだべか

→スタート時超高級マンションに刺激を受けたが、ちょんまげ文化に戻ってしまった。

5) 自分なりの日本の心を構築していく

→東京は文化都市、日本の心が伝わってくる。